

設問1

大腸がんについて誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	直腸やS状結腸に多く発生し、年齢調整死亡率はやや減少傾向にある。
A2	リンパ節転移の可能性がほとんどなく、腫瘍が一括切除できる大きさと部位にある場合は内視鏡的切除が選択される。
A3	疾病や予後に対する不安および精神症状にはカウンセリングや薬物療法が行われる。
A4	QOLの維持・向上を目的として、外科治療や薬物療法の当初から緩和医療を導入することが望ましい。
A5	日本人においては、身体活動と大腸がんリスクの関連性はないとされている。

正解 A5

我が国における大規模コホート研究において、身体活動は大腸がんリスクを低下させるとされています。部位的には結腸がんリスクをほぼ確認に低下させますが、直腸がんについては根拠が不十分とされています。また、男性では予防的な関連がありますが、女性では関連が見られていません。

設問2

胃潰瘍について誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	胃の粘膜下層に損傷や欠損が生じている状態である。
A2	自覚症状として上腹部痛が多発し、食後に出現しやすい。
A3	吐き気や嘔吐などにより食欲不振が強い場合は、体重減少や低栄養に注意する。
A4	病変部から出血する場合、鮮血便を認めることが多い。
A5	ヘリコバクターピロリ菌の感染や非ステロイド性抗炎症薬の服用などが原因となる。

正解 A4

胃などの上部消化管からの出血では、血液の消化性変化を生じるためタール(黒色)便となる。鮮血便は肛門から比較的近い消化管からの出血を疑う。

設問3

ウイルス性肝炎について誤っているはどれか、1つ選べ。

A1	A型・E型肝炎ウイルスは食べ物を介して感染する摂食感染が多い。
A2	B型肝炎ウイルスは母子感染、性交渉、家族内感染が多い。
A3	C型肝炎ウイルスはB型肝炎ウイルスに比べ永続的なキャリア(ウイルスの体内保有者)になりにくい。
A4	B型・C型肝炎ウイルスはA型に比べて慢性肝炎へ進行しやすい。
A5	重度の肝障害をきたす例ではインターフェロン療法などの抗ウイルス薬治療が行われる。

正解 A3

C型肝炎ウイルスはB型肝炎ウイルスに比べてキャリア化する率が高い。慢性肝炎へ進行する例も多く、適切な治療を行わなければ肝硬変や肝がん¹に進行することがある。

設問4

慢性肝炎について誤っているはどれか、1つ選べ。

A1	肝炎が長期に持続したもので、肝細胞の壊死とその部位の線維化が生じる。
A2	血液検査において、AST(GOT)やALT(GPT)の低値が持続する。
A3	自覚症状は全身倦怠感や食欲不振などであるが、重症化するまで症状がないことが多い。
A4	食事療法では肝細胞の再生に必要なたんぱく質やミネラル、ビタミンなどをバランスよく摂取する。
A5	適度な運動は肝臓への脂肪の蓄積を防ぎ、慢性肝炎の進行を防止する。

正解 A2

慢性肝炎では、肝細胞の崩壊とともに細胞内の酵素であるAST(GOT)やALT(GPT)が血液に入り込むため高値となる。

設問5

胃切除後障害について誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	高浸透圧の食べ物が急速に腸内に排出されるため、体内水分(体液)が増加する傾向となる。
A2	消化酵素の活性が低下して消化吸収不良をきたすことがある。
A3	胃容積の減少により食事の少量摂取で満腹感を感じる。
A4	ビタミンB12および鉄の吸収障害により貧血をきたすことがある。
A5	カルシウムおよびビタミンDの吸収障害により骨形成機能の低下をきたすことがある。

正解 A1

高濃度(高浸透圧)の食物が急速に小腸へ流れ、浸透圧差によって体内から腸内へ水分が移動する結果、血漿量の減少に伴う低血圧(ダンピング症候群)を生じることがある。